



←これは何だと思いで
すか？ この実が大きく
なるとブドウのようにたれ
下がってきます。そうです
クルミの赤ちゃんです。

→5月も20日にも
なると急に夏日に
なった。売店では
かき氷を始めた。

ついに日中の気温が三十度を超え、
夏日になった。ついこの前までは穏や
かな気候だったのに、わずか数日でえ
らい変わりようだ。

ところで、ちかごろ世間では、キレ
る老人、がふえているといわれるが、
矢切の渡しでもそんな光景を目にする
ことがあった。

年のころなら七十代と思える高齢者
の一団がやって来た。女性七人、男性
四人の仲良しグループなのか、なかの
一人の男性がリーダーらしかった。

時間は午前中で一便の舟が東京側か
ら客を乗せてこちらに向かっていると
きだった。

舟頭は最初の客だったせいもあり、
客に説明をしながら、流れにまかせて
ゆつくりと舟を進めていた。

「進んでる、進んでる。ゆつくりとだ
けど、こちらへ来ているよ」

「なにか説明してるのかなあ、話して
るみたいだよ」

「のんびりと、乗ってる人は気持ちい
いだろうなあ」

グループは、てんでに話していた。

今週のクマ

→得意気なクマ。ムクドリを捕まえ、この日は一日中獲物の番をしていました。



→道端に真っ赤に熟れたイチゴ。だれも足を止めません。ヘビイチゴだからです。食べても味もしません。



そこにリーダーらしき男性が先に舟の代金を払って仲間と合流すると、「なにやってんだよ。ずいぶん遅いじゃないか」

開口一番、そういったかと思うと、そばで見ていた私に向かって、

「おい、早く来るようにいえよ」

聞こえてはいたが、私は聞こえなかったふりをしていた。すると、まわりの仲間聞こえるように、

「早く来いよ」

「しっかり、こげよ」

仲間は聞こえているはずなのに、なにもいわない。

「まったく、なにをしてんだよ。こっちで客が待ってるんだよ」

いま舟に乗っている人たちもお客さんなのだから、舟頭としては、サービスのつもりで、できるだけゆっくりと舟をこいでいるのだろう。

ところが、リーダーらしき男性からすると、いま乗っている客のことなど、どうでもいいのだろう。

いってみれば、わがままだ。他人のことなどより自分たちが中心なのだ。こういう人がキレル老人になるのだろう。